

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	はり実技2
科目基礎情報					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	45時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	東洋療法学校協会 指定教科書				
担当教員情報					
担当教員	山下 俊樹・安藤 亮		実務経験の有無・職種	有・鍼灸師	
学習目的					
鍼灸治療の基礎となる鍼（はり）の操作全般を学ぶ。正確で素早い操作での片手挿管法、押し手や刺し手の圧の加減、切皮・断入操作の基本を身につけ、人体への刺鍼手順とその注意点、禁忌事項などを含め学習する。自身の体への刺鍼から対人刺鍼へステップアップし、2年次の応用刺鍼スキルの修得のための基礎技術を身につける。					
到達目標					
鍼を刺入するための基本技術を修得し、安全かつ正確な鍼を全身に刺入できることを目標とする。目的とする部位へ正確な深さ、角度で鍼を刺入できること、また適切な刺激を加えるための正しい手技操作の獲得を目標とし、決められた時間内において、複数箇所のツボを適切にとらえ、指示された操作で正確な鍼を刺入できる技術を身につけるとともに、灸頭鍼などの特殊鍼法の操作技術習得もめざす。					
教育方法等					
授業概要	前期に修得した刺鍼技術を応用して、現行の17種類の鍼法について理解し実践します。刺激量の強弱や患者や疾患に合わせた刺激量を調節できるように練習を繰り返します。対人の足部から慣れ、腰部や腹部などへの刺鍼とともに、灸頭鍼の技術を修得します。また小児鍼や耳鍼、ローラー鍼・かっさなどの特殊な鍼や手技技術に関しても互いに実践しながら学んでいきます。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	実技試験		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	現行17術 単刺術 置鍼術		単刺・置鍼術について理解し実践できる		
2回	現行17術 雀啄術 間欠術		雀啄・間欠術について理解し実践できる		
3回	現行17術 雀啄術 間欠術		雀啄・間欠術について理解し実践できる		
4回	現行17術 副刺激術 示指打法		副刺激術 示指打法について理解し実践できる		
5回	現行17術 旋撚術 回旋術		旋撚術 回旋術について理解し実践できる		
6回	接触鍼 小児鍼		接触鍼 小児鍼について理解し実践できる		
7回	接触鍼 小児鍼		接触鍼 小児鍼について理解し実践できる		
8回	現行17術 屋漏術 細指術		屋漏術 細指術について理解し実践できる		
9回	現行17術 屋漏術 細指術		屋漏術 細指術について理解し実践できる		
10回	かっさ療法 ローラー灸 摩擦鍼法		かっさ療法 ローラー灸 摩擦鍼法について理解し実践できる		
11回	かっさ療法 ローラー灸 摩擦鍼法		かっさ療法 ローラー灸 摩擦鍼法について理解し実践できる		
12回	灸頭鍼①		灸頭鍼法について理解し実践できる（自身の足）		
13回	灸頭鍼①		灸頭鍼法について理解し実践できる（自身の足）		
14回	灸頭鍼②		灸頭鍼法について理解し実践できる（対人の足）		
15回	灸頭鍼②		灸頭鍼法について理解し実践できる（対人の足）		

授業計画（16回～23回）		
16回	灸頭鍼③	灸頭鍼法について理解し実践できる（対人の足・腰・腹）
17回	灸頭鍼③	灸頭鍼法について理解し実践できる（対人の足・腰・腹）
18回	灸頭鍼総合	ツボに対し適切に刺鍼し灸頭鍼ができる
19回	灸頭鍼総合	ツボに対し適切に刺鍼し灸頭鍼ができる
20回	総合実習	総合的に一連の動きとして施術が実行できる
21回	総合実習	総合的に一連の動きとして施術が実行できる
22回	総復習①	1年を通じての総復習
23回	総復習②	1年を通じての総復習